

名古屋国語教育研究会会報

令和6年10月 広報部 第75号

「夏の半日研究会」を振り返って

今年度も、講演会を7月27日にオンラインで、参集形式による各分科会を8月8日午後18時にウイックあいちで開催しました。

＜ オンライン講演会の様子 ＞

今年度は、「子どもたちが自走する国語教室—『作家の時間』『読書家の時間』の理念と学びの姿—」という演題で、軽井沢風越学園のラーニンググループスタッフ、澤田英輔(さわだ えいすけ)氏、通称「あすこま」さんを講師にお招きしてお話を伺いました。

1 主な講演内容

(1) あすこまさんの国語教室

誰もが「書き手」「読み手」であるという理念に立ち、上手・下手、好き・嫌いに関わらず、読み書きと自分の「いい付き合い方」を見つけてほしいとの思いから、多くの選択肢を用意し、安心して取り組むことができるような場作りに力を入れています。例えば、創作活動を通して書くことを学ぶ「作家の時間」では【資料①】の内容を「書き手の権利」として子どもに保障しています。「作家の時間」は、他の子どもの作品を例にした「ミニレッスン」、個人ごとの「書く時間」、代表の子どもへのインタビューを通して振り返りや共有を図る「オーサーストーク」という流れで行い、子ども同士で学ぶという意識をもつことを常に目指しています。

1. 読まれない権利
2. 書き直したり、消したりする権利
3. 好きな場所で書く権利
4. 信頼できる読み手を得る権利
5. 書いている途中で道に迷う権利
6. 放り出す権利
7. 考える時間をとる権利
8. 他の書き手から借りる権利
9. 実験をしたり、ルールを破ったりする権利
10. パソコンを使ったり、絵を描いたり、紙とペンで書いたりする権利

【資料①「書き手の権利」一覧】

書いた後には作品集を作り、作品について話し合ったり、よい所を探したり、もらったファンレターに返事を書いたりする活動等を行います。そして「あとがき」という形で、作品、プロセス(書く過程)、書き手としての自分、の3点について振り返ります。なお、本講演では「作家の時間」中心でしたが、「読書家の時間」も行い、作家の時間とのつながりももたせています。

(2) 参加者同士の話し合いを踏まえた質疑応答

ブレイクアウトルームで参加者がグループに分かれ、感想や意見を交流しました。活発な交流が見られ、その後の質疑応答では「国語科のカリキュラム」や、「評価(評定)」について、あすこまさんのお考えをうかがうことができました。その他、次の学習につながる振り返りのさせ方など、多くの質問に丁寧にお答えいただきました。

2 講演会に参加して

子どもが「書き手(読み手)としてのアイデンティティ」を確立することを目指した国語教室の姿をうかがって、新しい視点を得ることができ、多くの学びがありました。

また、子どもの自走のためには、必ずしも教師が「伴走者」でなくてはならないとは限らず、その教師「らしさ」があることが大切なのだということもお考えもうかがい、授業づくりや教師としての在り方について改めて考える貴重な機会となりました。

～名国研ホームページ・更新中！～

課題研究部(話すこと・聞くこと部会、書くこと部会、小学校読むこと部会、中学校読むこと部会、言語・書写部会)や授業研究部の月例会の様子や案内がアップされています。他にも、会報や研究集録の目次もPDFで見られるようになっていきますので、「名国研」でぜひ検索してください。右の二次元コードを読み取っていただいてもけっこうです。

「お気に入り」に登録しておくとも便利です！ URL <https://meikokuken.sakura.ne.jp>



< 各分科会の様子 >

【話すこと・聞くこと部会】

小5単元「『子ども未来科』で何をする」の授業で、子どもが自己選択・自己決定できる学びについて二つの進め方を提案しました。一つ目の提案では、「身に付けたい力一覧」を用い、「計画シート」に記入しながら、現在の自分の話す・聞く力を分析したり、学習で伸ばしたい力を選択し、学習計画を立てたりする体験をしました。二つ目では、「身に付けたい力」が示された「将棋シート」の将棋の駒を進めることで、学習の進捗を自分も友達も分かる方法を提案しました。意見交流では、「自己選択・自己決定」という過程の必要性や実践の課題について熱心に討議しました。



【書くこと部会】



昨年度から部会で検討している単元内自由進度学習を取り入れた実践から洗い出した成果と課題を基に、「自己調整を促す見通しと振り返りの方法」「伴走者としての教師の関わり方」について提案しました。その後の意見交流では、「A 評価を付ける基準」「自校における書く学習の進め方」などについて、多くの意見が交わされました。児童が学習を自己調整するための教師の支援について理解を深めることができました。

【小学校読むこと部会】

説明文『固有種が教えてくれること』（小5年）の授業を例に、「読みの系統表」を活用し、児童が自らの課題解決に向けて、自走し、仲間と協働しながら学び続ける授業について提案しました。導入では、内容面にも形式面にも目が向くような課題として「資料なし本文」を提示し、自走の部分では、筆者がそれぞれの資料を入れた意図について考えることで、内容面についても形式面についても理解を深めることができる授業を提案しました。



【中学校読むこと部会】



『バースデイ・ガール』（中3）を用いた作品の魅力を考え続ける姿を目指した授業と、『紙の建築』（中2）を用いた具体例の効果を考え続ける姿を目指した授業を提案しました。協議では、「子どもが自走するためには、『～したい』という思いを生徒にもたせ続けることが大切だ。」といった、「自走する姿」に関する疑問や感想が多く出ました。今後も「自走する姿」に焦点を置き、研究を進めていきたいと考えています。

【言語・書写部会】

前半は、文学作品から「心に残った言葉」を抜き出して理由を共有したり、同じ意味の心情表現を表す言葉を比較したりすることで、言葉の魅力を感じさせる実践と、書写指導において、生徒にPDCAサイクルを意識させることで、主体的に学ぶことができる実践を紹介しました。後半は、小中の教育課程を踏まえた上で行う言語指導のやり方や、文法学習に話し合いを取り入れる方法を提案しました。どの実践においても、子どもに伴走する教師の在り方を、参会者と共有することができました。

